

菌の利用が顕著に見られた。また、皮質分、可溶性成分、可溶性灰分においても損傷糸状菌の利用による減量と考察される変動が認められた。

これらの結果から皮革類の糸状菌損傷には、その脂肪分の存在が極めて大きな影響を有していると思われたので、皮革片をエーテルで洗滌して表層の脂肪分を可及的に除いたものに供試糸状菌を接種し、その菌叢の生育状態を観察した。その結果菌叢の出現は3日遅れ菌叢の発達も極めて不良であることが明らかに認められた。以上の結果は製革作業の加脂工程に留意すべき問題点が存在することを暗示していると考察される。

B-19 糸状菌による皮革類損傷に関する研究 (第2報)

—損傷皮革の化学的組成について—

筑紫女学園短大 末岡 禎子

1. 九州家政学会において報告した第1報では主に糸状菌損傷の物理的変化を考察したが、今回は糸状菌損傷が皮革の化学的組成に及ぼす影響すなわち損傷糸状菌が皮革成分をどのように代謝利用するかについての大略を考察し得る結果を得たので報告する。

2. 前回の実験に用いた衣料用ソフトレザーの物理的測定を終えた試料をそのまま、おのおの表面積1平方耗に細切したものを供試した。試料区分はARF接種区①、BRF接種区②、並びに対照区③、である。皮革各区分の分析法は日本工業規格に準じた。

3. 分析の結果、水分、全灰分については接種区と対照区との間に殆んど差異が認められなかった。しかし、脂肪分は①11、45%②は15、17%③21、73%と損傷糸状